

北アルプス美化作戦とその成果

神岡営林署 谷 沢 利 夫

北アルプスは汚れる、いや「汚される山」と化している。残念だが事実であり現実でもある。世は、社会は遅ればせながら公害に対する認識を変えたが、（発想の転換）なお「汚される山」「ゴミと空カンの山」の抜本的対策と、山岳愛好者の発想の転換を望む。

昭和48年のらくがき帳“山のともしび”にはこの種のらくがきが多く目についた。

ま え が き

著しい産業の発展の裏には、自然が破壊され環境が汚染される。そして新しい文明社会は物の使い捨て時代へと変革し、「ゴミ戦争」「ゴミ公害」という深刻な問題としてとらえられている。

今や「ゴミ戦争」は下界だけでなく、標高3,000米を越す山岳地帯にまで押し寄せているのである。

あの雄大な北アルプスの眺望や、切り立つ断崖絶壁、そして岩を積み上げたような大自然の景観は、今そこに立っている足元から始まっているのである。

足下のかれんな植物が踏みつぶされ、いたるところに空カンがころがり、ゴミが散乱していて、すばらしい景観などと言えるであろうか。

自然を保護するという理念は、この小さな行為によってなされる破壊から護ることでなければならない。自然破壊は道路建設や、観光開発、林業等、産業の発展によって行われてきたことは事実かもしれない。しかし私が今、声を大にして訴えたいのは、都会の雑踏や、騒音、汚れた空気より逃れて、疲れた体と心をいやし、安らぎを得るために自然を求めて山にきた人々が捨てるゴミや、空カンによって大変な自然破壊を侵していることである。

それは捨てられたゴミや、空カンが散乱し汚臭を放っていること自体、大自然が損なわれていることであり、高山植物を枯死にまで追いやってしまう。

私たちが北アルプス美化作戦として取り組んだ大きな目的が、まずこの小さな自然破壊から山を護ることにあったのである。

1. 北アルプスの汚染の現状

山岳地に自然を求めてくる登山者は年ごとに増加していることは事実であるが、北アルプス（飛騨側）には年間どの程度の入込みがあるか、どのように汚染されているのかを具体的に探ってみよう。

新穂高ロープウェイが開通した昭和45年を境としてその前後の5年間の入込みのうち、いわゆる

登山を目的としたものは年間概ね10万人程度で大きな変動がないのに対し、観光登山を目的とするものは前半の2万人程度に対し、後半は年間15万人に増加している。

つまりロープウェイを利用した観光登山客が、独標から西穂頂上へと足を伸ばしていることがわかる。このように子供から老人にいたるまでピクニック気分で訪れる登山者が散らかしてゆく空カンや弁当クズ、ゴミは目を覆いたくなるような状態であった。登山者が山の汚れを嘆き訴えた状態を、らくがき帳から抜粋すると、

○アルミカンや紙くずの散乱、そんな都会の公害にいや気がさして、ぼくは山に登る、だがその聖なる山の頂にまで、アルミと紙の狂騒があろうとは

○ゴミくずや空カンの山で道がわかり心強かった。がこれは何という文明の皮肉だ。

○ジュースの空カンをポイと捨てた人、お願いだからそんなことをするのをやめて下さい。私は皆さんの心を信じ今日も空カンを拾い、ゴミを集めます。皆さん山を美しくして下さい。

このようにゴミ、空カンの散乱を訴える登山者の声を裏付けるものとして、当署のパトロール学生が、西穂山荘より独標までの約1.4kmの間で528個の空カンを拾ったと嘆いていることでも実証できるのである。

2. 美化作戦を展開した動機

(1) なぜらくがき帳を置くようになったか。

神岡宮林署では北アルプス南岳に国設避難小屋を設置し、管理運営を上宝村長に委託しているが、この避難小屋は毎年のように壁を破られ、部屋の中でたき火をされ、荒され放題になっていた。この対策として登山者の協力を得るために各山小屋に備えつけたものである。(別表第1らくがき帳山のともしび参照)

冬山では登山者が小屋に着いた時の小屋の状態や、積雪の状況、小屋をどのようにして使用したか、夏山では高山植物保護、ゴミの散乱場所、らい鳥の生息数、オコジョの数やゴミの持ち帰り運動の意識調査等をアンケート方式で記入するよう協力を求め、そして余白にらくがき欄を設けたところ、以外と反響を呼んだものである。

(2) 美化作戦に発展した結びつきと、「みんなの山を美しく」の発想

昭和48年のらくがき帳記載者約3千人のうち、ゴミの散乱場所を具体的に指摘した人が約800人に達し、またらくがき欄には山の汚染を嘆くもの、環境美化を訴える人が多く、自然の美しさや大切さがつづられていた。

これらの現実をふまえ、北アルプスの美化と、高山植物の保護をいかにしたらよいか問題として提起された。

この対策としてまず、ゴミの持ち帰り運動を推進することを基本に、登山者のみならず、一般の人たちの心に訴えモラルを高めるために一大美化運動に取り組んだものであるが、その中で特に強

調したことは、みんなのものを大切にする。公共の場所は汚さないという1人1人の心がけが、山を汚さないことに発展させてゆくんだということ、つまり山はみんなのもの、自然は大切なものという道徳心を植えつけるために“みんなの山を美しく”の輪が大きく広がってゆくことを目標に作戦を展開したのである。

3. 美化作戦の内容

(1) らくがき帳「山のともしび」

美化作戦の動機ともなった、らくがき帳自体が重要な戦術用具であり威力を発揮した。

らくがき帳は登山者が見たり、聞いたり、感じたことや行動のなかから項目に答えてもらうように企画したものであるが（別表第2表らくがき帳集計表参照）これを次のように配付して集約した。

| 配付箇所 | 年 別 | 48 | | 49 | | 50 | | 計 | |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | 配付数 | 回収数 | 配付数 | 回収数 | 配付数 | 回収数 | 配付数 | 回収数 |
| 神岡営杯署 管内 | | 40 | 22 | 30 | 25 | 60 | 35 | 130 | 82 |
| 富山 “ “ | | 0 | 0 | 14 | 14 | 60 | 37 | 74 | 51 |
| 松本 “ “ | | 0 | 0 | 7 | 7 | 40 | 11 | 47 | 18 |
| 大町 “ “ | | 0 | 0 | 1 | 1 | 20 | 22 | 21 | 23 |
| 計 | | 40 | 22 | 52 | 52 | 180 | 105 | 272 | 174 |

この調査項目のなかで、ゴミの散乱箇所と、ゴミの持ち帰り意識と実行力について分析してみよう。

① ゴミの散乱箇所

ゴミくず、空カンが散らかっていると記載した登山者は昭和48年記載者総数3,022人に対し782人で26%と3.9人に1人が指摘しているが、昭和49年は記載者総数3,118人に対し674人で22%と4.6人に1人となり、昭和50年は記載者総数4,046人に対し778人で19%と5.2人に1人の割で指摘している。

主な山の箇所別等詳細については、別表第3過去3ヶ年の山の汚れ度比較表のとおりである。

② ゴミの持ち帰り意識と実行力調査

私たちがゴミの持ち帰り運動を行っていることに呼応して登山者は一体どの程度の持ち帰り意識や実行力があるか、らくがき帳から拾い出したのが別表第4表ゴミの持ち帰り調査分析表のとおりである。この表から意識と実行力をそれぞれ100%とみた場合に分析してみると、「当然のことだ」53%、「そんなこと言ったってできない」3%、「その気になれば」44%となり、「従来から持ち帰っていた」77%、「従来から自分のゴミだけでも持ち帰れなかった」8%、「今回より持ち帰ることにした」15%となって、昨年に引き続き今年も持ち帰る実行力のある人のなかで6.5人に1人が持ち帰ったことがわかる。

(2) バッジ・カード作戦

山が一部の登山家でなく、おびただしい数の大衆のものとなった現在、いかにしてこの人たちの心に訴えるべきか、それはきれいで、しかもこれまでにないアイデアに富んだ、誰でも、いつでも胸につけれるものを配って意識を目覚めさせ、同時に推進カードを渡して、自分のゴミや、空カンは登るときに比べれば下りの重さなんか $\frac{1}{4}$ しかないという数字を掲げて持ち帰りを促すダブル作戦を展開した。

別表第5表 バッジ・カード参照

(3) 合同PR作戦

① 合同PRを計画した趣旨と参加機関

従来町村や美化の会等で、パンフレットやビラなど趣向を凝らしてはいても、個々バラバラであった。

ゴミの処理は環境庁、高山植物保護は営林署とか、登山指導は警察署といったそれぞれの行政で取り組んでは効果があがらない。特に北アルプスはどこからでも縦走できるので広範囲にわたって保護管理体制が必要である。

同じ区域を管轄している行政が相互に連携を深め合同で作戦を展開してこそ一層の効果を挙げることができるのである。

このような趣旨にたって神岡警察署、上宝村役場、神岡町役場、環境庁平湯管理事務所、各山小屋に参加を呼びかけ、次の方法によって実施した。

② 運動の方法

昭和48年と49年のシーズン中延べ12回を、檜、穂高、双六、笠等の北アルプスで実施したものである。メンバーは警察署長、次長、町村助役、収入役、担当課員、営林署長以下署員が8～10名のPR隊を組織し、織旗、横断幕、腕章、バッジ、カード、フラワーシール、携帯マイク等の七つ道具を使用して高山植物の保護や、ゴミの持ち帰りを啓蒙宣伝するとともに、バッジ、カードを直接登山者の胸につけることによって話し合いのきっかけをつかみ、“みんなの山を美しく”の意識高揚を図った。

(4) 新聞掲載等によるPR作戦

朝日新聞、中部日本新聞、岐阜日日新聞、毎日新聞4社の各記者は、この運動の最初から積極的な報道意欲を見せ、合同PR作戦には毎回現地まで取材にきて翌日の朝刊に載せるなどニュースの効果を挙げるとともに、運動の区切りや集約時には必ず報道され、その報道回数は現在までに延71回に及んでいる。さらに信濃毎日新聞が2回にわたるシリーズもので報道し、また3回にわたる電話インタビューでラジオ放送されるなど、登山者のみならず一般への宣伝効果が大きかった。

4. 成果と今後のとりくみ

(1) 数字で見た成果

山の汚れ度比較表で示すとおり、登山者が汚いと指摘した数値が減っていること、またその気になればできると答えた人が昭和49年と比較して7%も増加している。さらに今回より持ち帰っている人が308人も増加し、昨年と合わせ着実に持ち帰りを実行している。

(2) 登山者、山岳関係者等の反応と意見

- ナイロン袋に空カンを拾いながら下山している家族連れや、ザックに入れた空カンを揺すって見せる等、積極的に持ち帰る登山者が多くなった。
- 呼びかけにジット耳を傾けてくれたり「わかりました、協力します」と各地でその反応があった。
- 確かに急な登りでのカンジュースはうまい、しかし空カンを再びリュックに入れるのは勇気のあることだ。それでもその勇気を出そうと思う。かりにも山を愛するという者は「汚れた山をきれいにする」という前に「絶対に山を汚してはならん」
- 現地でのPRなので反響は大きくかなり理解されているので、きっかけを作れば十分協力が得られる。
- 花畑での休憩等も意識して避けているなど、この運動が浸透している証拠だ。
- 人の集まる所にゴミが少なくなり、みんなの山を美しくの美化意識が高まった。

(3) 一般の人達の反応と意見

海上保安官、豊中市地区青年会、旭川営林署、函館営林局、各地山岳会、その他多数の個人を含め全国の皆さんから30余通にのぼる激励の手紙が寄せられた。内容は一致して山が汚れていること、この運動のねぎらい、そして協力を惜しまないという誓いが綴られていた。

その例を1、2照会してみよう。

- ① 日本人は家のゴミを外に掃き出せば美化なりとしていましたので、外の汚れには無関心だったのでしょう。皆様を中心として美化態勢と、教育をしないと日本の山の美化はできません。お手伝いしますので頑張って下さい。
- ② 貴署の御活躍は私等山を愛する者にとって心の温まるものです。アルプスのゴミ公害を防止するため、私たちクラブも山の汚れと戦おうと微力ながら協力します。

このように反響が大きく、特に日本山岳会の渡辺正臣氏が、ヨーロッパアルプスのスイス山岳会、フランス山岳会にまでバッジとカードを持ち込み、「みんなの山を美しく」がPRされた。

北アルプスの美化作戦の企画から、運動に参加して、実際にこの目でゴミが散乱していないことを確かめられたことや、山岳関係者から以前に比べ山が美しくなったと言う声が自然に聞かれるようになったことである。

特に新穂高温泉の旅館で、登山者が山から持ち帰って置いてゆくゴミに悲鳴をあげていることな

どを聞き、成果を裏付けるものとして評価することができた。

(4) 今後の取り組み

私たちが美化作戦を行ってきたなかで登山者のみならず一般の人たちも心の中には、十分美化意識があるということを知ることができた。

この意識をいかに多くの人たちから引き出して行動に結びつけることができるか、そのためには常にきっかけを作ることが大切である。

私は最後のまとめとして中日新聞社、社会部の小出宣昭氏と、朝日新聞社の天声人語を担当されていた荒垣秀雄氏の言葉を借りてしめくりたいと思う。

小出さんは「ゴミと美化について、行政側には世論という基礎データさえないのが実情なのだ。山のゴミ持ち帰り運動の神岡営林署など、いずれも「世論調査をもとにして積極的な行政運営している点は、美化問題を方向づける格好の事例である。……そして法律にも設備（ゴミ箱等）にも頼れず、ひたすら登山者の意識に訴えるしかない山のゴミ持ち帰り運動が、ことしもまた北アルプスの山山で行われている。その運動の成果と行く末は日本人全体のゴミ問題へのモラルを測る貴重な実験室ともいえる。」と言われ、

また荒垣さんは、「山を修行道場とのみ心得ることもあるまいが、山のモラルを守って、山はやはり清浄なものにしておきたい。蜜蜂は花を汚さず、ただ味をとらえて去る。山を汚さず、山から何ものかを心身に摂取するのが、山を愛するものの心がけであろう。」と結ばれている。

らくがき帳山のともしびで集約したゴミの持ち帰りは、その気になればできると答えた人をいかに持ち帰りを実行させるか、それは1回や、2回の運動で達成されるものではなく、反復した根強い運動にしなければならない。

“みんなの山を美しく”を合言葉にこの運動の輪をさらに大きく広げていくことが大切である。

らくがき帳集計表

42頁

| 山小屋名 | 見たり、聞いたり、感じたこと、のまじり | | | | | | | | | | | | | | 記載者の層別 | | | | | 登山の危険性や遭難防止のために | | | |
|------------------------|--|-------|------|-------|-------|------|-------|------|---------|-------|------|------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-----------------|-------|------|--|
| | 高山植物 | | 指定地帯 | | 鳥獣 | | 自然 | | ごみの持ち帰り | | その他 | | 職業 | | 年齢 | | 性別 | | 登山経験 | | 遭難経験 | | |
| | 持った | 休んだ | 見つけた | 見かけた | 見つけた | 見かけた | 見つけた | 見かけた | 見つけた | 見かけた | 見つけた | 見かけた | 見つけた | 見かけた | 見つけた | 見かけた | 見つけた | 見かけた | 見つけた | 見かけた | 見つけた | 見かけた | |
| 槍岳山荘 | 19 | 73 | 58 | 172 | 287 | 34 | 609 | 19 | 424 | 365 | 34 | 104 | 195 | 455 | 192 | 147 | 203 | 1192 | 287 | 88 | 226 | 77 | |
| 西穂山荘 | 22 | 49 | 29 | 120 | 60 | 12 | 44 | 12 | 324 | 330 | 24 | 57 | 60 | 258 | 122 | 141 | 80 | 661 | 252 | 125 | 286 | 93 | |
| 煙岳小屋 | 7 | 13 | 4 | 38 | 6 | 4 | 147 | 5 | 85 | 105 | 6 | 16 | 23 | 61 | 52 | 32 | 59 | 227 | 36 | 87 | 47 | 43 | |
| 槍平小屋 | 8 | 10 | 9 | 43 | 27 | 10 | 97 | 12 | 74 | 65 | 18 | 20 | 19 | 36 | 9 | 29 | 48 | 141 | 75 | 33 | 64 | 16 | |
| 雲岳山荘 | 5 | 22 | 18 | 47 | 87 | 8 | 99 | 4 | 66 | 61 | 5 | 6 | 43 | 58 | 24 | 14 | 62 | 201 | 81 | 15 | 75 | 9 | |
| 丸根山荘 | 0 | 3 | 4 | 7 | 7 | 4 | 18 | 2 | 10 | 12 | 3 | 1 | 44 | 57 | 22 | 33 | 31 | 187 | 9 | 7 | 19 | 6 | |
| 鏡平小屋 | 5 | 40 | 13 | 39 | 50 | 5 | 120 | 8 | 75 | 81 | 7 | 10 | 38 | 64 | 18 | 25 | 53 | 198 | 101 | 39 | 104 | 12 | |
| 南岳山荘 | 13 | 17 | 23 | 81 | 97 | 15 | 176 | 7 | 137 | 128 | 15 | 26 | 51 | 107 | 54 | 27 | 50 | 289 | 154 | 57 | 134 | 57 | |
| 穂高山荘 | 11 | 9 | 20 | 90 | 79 | 26 | 277 | 7 | 185 | 179 | 12 | 23 | 77 | 150 | 66 | 33 | 64 | 390 | 170 | 86 | 181 | 42 | |
| 双六小屋 | 29 | 131 | 76 | 141 | 248 | 16 | 333 | 28 | 247 | 232 | 27 | 45 | 58 | 109 | 193 | 121 | 79 | 560 | 233 | 33 | 193 | 41 | |
| 50年度計 | 119 | 365 | 254 | 778 | 948 | 134 | 1,920 | 104 | 1,627 | 1,558 | 151 | 308 | 608 | 1,355 | 752 | 602 | 729 | 4,046 | 1,398 | 620 | 1,329 | 396 | |
| 50年度計画 に対する割合 | 0.03 | 0.09 | 0.06 | 0.19 | 0.23 | 0.03 | 0.47 | 0.03 | 0.40 | 0.39 | 0.04 | 0.08 | 0.15 | 0.33 | 0.19 | 0.15 | 0.18 | 0.35 | 0.15 | 0.33 | 0.10 | 0.10 | |
| 49年度計 | 113 | 168 | 174 | 674 | 950 | 112 | 1,564 | 47 | 959 | 980 | 84 | 246 | 439 | 851 | 423 | 234 | 1,171 | 3,118 | | | | | |
| 50年度山計 | 90 | 364 | 149 | 654 | 783 | 106 | 1,606 | 78 | 1,124 | 1,059 | 97 | 171 | 357 | 586 | 362 | 347 | 794 | 2,446 | 607 | 445 | 740 | 156 | |
| 50年度男計 | 49 | 269 | 63 | 302 | 287 | 41 | 1,014 | 50 | 685 | 646 | 45 | 161 | 195 | 568 | 240 | 275 | 377 | 1,655 | 706 | 131 | 478 | 148 | |
| 50年度女計 | 32 | 67 | 59 | 132 | 200 | 61 | 602 | 21 | 404 | 410 | 30 | 54 | 120 | 208 | 139 | 128 | 226 | 821 | 313 | 112 | 304 | 56 | |
| 合計 | 290 | 1,065 | 525 | 1,866 | 2,218 | 342 | 5,142 | 253 | 3,840 | 2,673 | 223 | 694 | 1,280 | 2,717 | 1,443 | 1,352 | 1,216 | 8,968 | 3,024 | 1,308 | 2,851 | 756 | |
| 年月日 | 昭和 年 月 日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現住地 | 東京都 区 丁目 番 号 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 会社名 | 株式会社 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| コース | 日 沢 日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 見たり、聞いたり、感じたこと並びに行動の状態 | <p>登山の危険性や遭難防止の観点から感じたこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 登山道は荒れ果てた。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

